



店の陳列方法などについてアドバイスする武雄さん(右)

商店街活性化を目指して

「北の商人塾」開講

釧路 魅力ある店づくり学ぶ

商店街の活性化に向け、釧路市内の商店主たちが魅力ある店づくりを学ぶ「北の商人塾」が15日、市内で始まった。全国で商店街の再生を手がけてきた専門家から半年間にわたる、にぎわいを取り戻すためのノウハウを習得する。

釧路市中心市街地活性化協議会の主催で、J.R.釧路駅前などの商店街の店主ら約20店が参加した。15日の第1回講義では、全国各地の商店街で指導を続ける佐賀県在住の中小企業診断士、武雄信夫さん(67)が、大型店進出の影響で商店街から客足が遠のく近年の傾向を解説。「商店街の活性化には各店主が売り場を改革することが必要だ」などと語った。

16日には武雄さんが参加店の一部を個別に訪問し、各店の品ぞろえや内装などについてアドバイス。各店主はメモを取りながら、真剣な表情で武雄さんの指摘に耳を傾けていた。

「商人塾」は12月まで計10回実施。その後、各店が店の改革に着手し、来年3月をめどにお披露目イベントが行われる。

(鄭真)

道新

21.10.17

北の商人塾スタート

商店主ら 勉強会 繁盛店創出で活性化

剣路

繁盛店の創出で中心市街地を活性化させようという商店主らの勉強会「北の商人塾」(劍路市中心市街地活性化協議会主催)が劍路市で始まった。第一回は15日の夜から17日にかけて、講義や各店の指導を受けたが、今後12月まで10回に分けて実施し、来年3月には各店がどのように変わったか、お披露目イベントも行う。

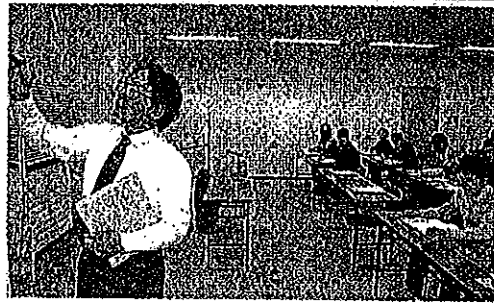
北の商人塾は、中心市街地活性化のためには従来の核店舗誘致やハード整備、イベント企画に頼るのではなく、個々の店の魅力を高めることが重要との考えの下進められる。講師は、全国各地の商店街の依頼で商人塾を行っている佐賀県武雄市の都市マーケティングコンサルタント会社

「クオールエイド」社長の武雄信夫さん。

15日の講義で武雄さんは「シャッターの内側の改革なくして、中心市街地活性化はない。まちぐるみで業種そろえ、品ぞろえを。今やショッピングセンターは怖くない」と意識改革を求めた。

北の商人塾には北大通商店街や和商市場、若松町などの商店主17人が参加しているほか、阿寒町などからも聴講生

武雄さん(左)の講義を真剣な表情で聞く商店主ら



が訪れ、真剣な表情で講義を受けていた。

(荒井純)

21.10.18



熱い思いを込め、釧路で「北の商人塾」が始まった。

JR釧路駅前から幣舞橋までの北

大通など、釧路の中心街は空洞化が進む。マチのにぎわいを何とか取り戻したい！

塾の主催は市や商工会議所などがつくる市中心街地活性化協議会だが、塾を構想し、持ちかけたのは

店主らの

北の商人塾

人任せではなく、本

当の活性化にはならない。

いま、中心街の大通りは20年ほど前の3分の1。魚の水揚げ日本一を続けたころのにぎわいはなく、勢いは大型店がある郊外に移ったままだ。

商店街が活性化策を何年も模索してきたが、厳しさは衰えない。2代目、3代目の店主は、平日も休日も人が集まっていた様子を見せているだけに、なおさら危機感が強い。

活性化を図るには「最後のチャンス」と参加した北大通の佐々木良造さん(画廊経営)は言う。ここは商人の原点に戻ろうというのが今回の塾だ。

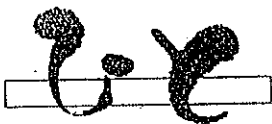
「まず、自分の店を再生させ、元気を取り戻す。いくつかの店に勢いが出れば、地域みんなで元気になるはずだ」

それに、たとえ公的な支援が得られても、個々の商店に活力

がなければ人任せではなく、本

10月中旬の初会合では、商店街の再生を全国各地で手がける専門家の話を店主ら約20人が聞き、それぞれの店も「売り場改革」として診断した。

道内各地のマチが中心部の疲弊に苦しむ。塾の期間は半年。商人魂を乗せた改革の試みが、釧路路のモデルとなるように見守りたい。(加藤 雅規)



「北の商人塾」

講師

たけお のぶお
武雄 信夫さん(67)



商店街活性化店の中から

佐賀県の中小企業診断士。全国で商店街を活性化させた実績を持ち、釧路市で15日に始まった商店主講座「北の商人塾」でも講師に招かれた。「大型店進出など、緩やかに訪れた商業の変化に、商店は対抗できなかつた」と全国の傾向を指摘する。

では、商店街に必要な対策は？「売り場の改革です。従来は通行量の増大やイベント実施など店の外での取り組みが中心で、肝心の店の中は手つかずだった」。12月までの期間中、各店舗を訪問し、内装や品そろえなどについて助言する。

道新

21.10.23

魅力ある店づくり実践

商店主ら
30人受講
「北の商人塾」始まる

商店主らが参加し、個々の店舗の魅力を高めること、賑わいある商店街づくりを目指す北の商人あきんど塾が、15日（木）開講した。翌16日には、さっそく講師が受講者の店舗を訪れ、魅力アップへ具体的なアドバイスが行われた。



第1回の商人塾では、夜7時から10時まで3時間にわたり講義が繰り出された。

賑わい再生へ繁昌店を創出

「北の商人塾」は既存商店の店づくりの転換を支援する事業で、「魅力ある個店」創出の創出を第一歩として、商店街の質的向上を図る場としての魅力を取り戻し、中心市街地活性化へと結び付けていく目的で行われるもの。

今年3月、本報社の導入部にあたる「ナイ」が創設した商店街（連）連会の主催で開かれ好評を得たこと、当所や市、商店街、各団体等の代表者らによる創設中、中心市街地活性化協議会の主催で、本格的な勉強会として実施に移されることになった。

講師には、中小企業振興センターの商業活性化アドバイザーとして実績を持つ佐藤麻のマーケティングコンサルタント会社（株）の代表取締役武雄氏を招いた。

商人塾では、商業理論についての講義と個店ごとの店舗指導（受講生の店舗での講師による現地指導）を2週間お



自店舗で武雄講師（右）からアドバイスを受ける受講者

き計り回覧版、「商業理論」の初回と題して、15日（木）午後7時の道庁経済センターで、初回の講義は15日（木）午後7時から始まった。

武雄氏は、「商店街の中で一割が繁昌店としてキラキラと光れば商店街は再生する」とを基本的な考え方で、受講生に「店自身の魅力アップのためには、シャッターの閉鎖を避ける」と、講義のみの受講生として、事業所

していく。塾生の役割は、魅力ある商店街をつくるための牽引役であり、自分の店を築き、周囲に広げてほしい」と期待を込め、商人塾の全体像や問題解決の課題を解説した。

翌16日には、武雄氏が各個店を回る店舗指導が始まり、「フアワード（1店の正面）は店が抱える課題に対するメ

ッペーシを表現する場所。古いボスターや不要な掲示物、セロテープの端が残っているなど、確認や話し合いをしながら、店づくりへのアドバイスを伝えた。

また、来店客が休める場所を作ることや、見やすい陳列方法を指導していた。

商人塾は12月1日まで、講義と現場指導が繰り返される。

新創
21.10.31